

No2 第57回全国子ども会育成中央会議・研究大会 第7分科会報告

事務局長 白石 和典



令和6年11月17日(日) 9:30~13:45
沖縄県男女共同参画センターていりる 1~3会議室

テーマ : 「子ども会の目的を考える」 目的の共有と具現化のための方策について

協議の手法……ワールド・カフェ

ワールド・カフェとは

「カフェ」のようになりリラックスした雰囲気の中で、少人数に分けられたテーブルで自由な対話〈第1ラウンド: テーマについての探求〉を行い、他のテーブルのメンバーをシャッフルして対話を続けること〈第2ラウンド: アイデアのやりとり〉により、参加した全員の意見や知識を集めること〈第3ラウンド: 気づきや意見の統合〉ができる対話手法の一つ。

☆「ワールド・カフェ」の効果

- ・話しやすさを生み出す
- ・発言の機会が増える
- ・参加者全員の意見が集まる
- ・参加意識が高まり満足感が得られる
- ・人がつながる

「ワールド・カフェ」を取り入れた理由

- 参加者に自由に意見を言ってもらいたい。
- いつもと違う雰囲気で話合いをしたい。
- 参加者の知恵や考えを集めたい。
- 参加者の考えや認識を深めたい。
- 新たな気づきを得たい。
- 相互理解を深めたい。

ワールド・カフェのエチケット

◇参加者同士の対話を楽しみましょう。 ◇自分が話すばかりではなく、他の人の話も聞きましょう。 ◇分からないことは質問しましょう。◇テーマに集中して話をするように心がけましょう。 ◇他者の意見を否定しないで、受け入れましょう。 ◇話し合う時間を確保するために、移動はスムーズにしましょう。

1 事例発表

「市子連」と「市教委」が両輪となった 空前絶後の子ども会活性化策

鹿屋市教委 生涯学習課 中村明博(鹿屋市子連 あっきーな)

① 市子連の活動

①-1 単位子ども会の活動の現状と課題が分かる2枚のシートを紹介

その1

- ◆「子ども会ができていない子ども会」の支援 → まず活動の整理(現状把握)
【活動例】を上げ、それを 〈子ども会〉〈育成会〉〈町内会〉の活動に分類する。
このシートで子どもたちが取り組む活動が見えてくる《見える化》(課題)

その2

◇「ややできている子ども会」へのシート (できている項目に○を付ける)

○の項目が「できている現状」、○なしの項目が「取り組む課題」

No1 子どもの役員(子どもの会長達 or リーダー達)は決めていますか

No2 子どもの役員は、子ども同士で決めていますか

No3 子どもたちだけの会議（話し合い）をしていますか

No4 ~ No10 活動の日報は、子ども会の役員が記録していますか

①-2 子どもの手による子ども会を実現するための3つの取り組みを紹介

その1

「わくわくチャレンジお助け金」(H27年度開始) (子どもが考えた企画に助成)

○「申請」(子ども達が話し合う) 子ども達でできることを子ども達で話し合い



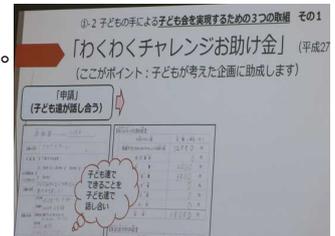
○「決定」(子ども達に現金支給)・・・子ども達はやる気がでる。



○ 活動実施



○「報告」(壁新聞づくりで振り返り)



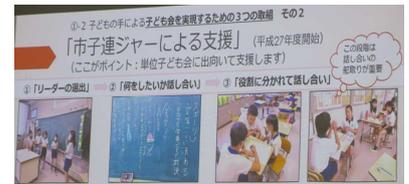
その2

「市子連ジャーによる支援」・・・単位子ども会に出向いて支援する

①「リーダーの選出」 ②「何をしたいか話し合い」 ③「役割に分かれて話し合い」

④「案内チラシ」 ⑤「道具の買い出し、会場準備」 ⑥「夏祭りレクリエーション」

⑦「振り返り」



その3

「子ども会大会」・・・創作活動 イン・リーダー研修

開催時期：2月下旬 1泊2日研修

参加対象：各単位子ども会の次期リーダー（現5年生）

研修内容：リーダー会議の演習、KYT、レクリエーションの実践

② 市教委の活動

○すべての子どもが、子ども会を体験できる環境づくりの取組

②-1 SUPERな広報 ②-2 SUPERな企画 ②-3 SUPERな検証

○市教委が子ども会活性化に取り組み始めた理由

子ども会加入率が令和元(2019)年に6割を切って、関係者の危機感が高まる。

その後加入率低下が進み、「令和3年市教委としても全力で子ども会の活性化に取り組み始めた。」

21世紀型 鹿屋 Original「子ども会」構想

～コカ(KOKA)プロジェクト～ 開始R3～

かのや オリジナル 子ども会 アソシエーション



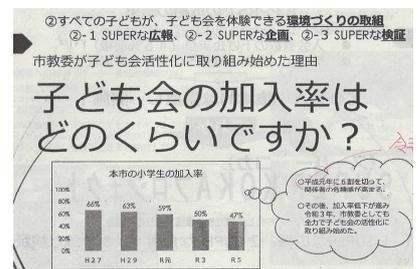
K

O

K

A

(KOKA)



当初基本構想(コンセプト)

ア 全員参加(100%加入)の「参加したくなる子ども会」

～地域の子どもは地域で育てる～

イ 全員参加のための方策【組織】

ウ 子ども会活動の再構築【活動】

(魅力あふれる未来型活動づくり)

R3～R5での取組の結果→入会者数の下げ止まり(45%前後)

→活性化、会員の確保等にさらなる妙案なし



KOKA 抜本的な見直し 実施



SUPER KOKA プロジェクト

②-1 SUPERな広報 ・子どものための手引き（作成中）

（例）○「さあ、リーダー会議を始めよう！」のページの資料
・リーダー会議の流れ ・活動計画書 ・準備するもの



②-2 SUPERな企画 ・大人主導からの軌道修正

○育成者への研修（リーダー会議の模擬体験）

②-3 SUPERな検証 ・子ども会がない地域に子ども会新設

○保護者へ宣言（PTA総会、PTA理事会で「子ども会を作ります」と宣言



○子どもにも宣言（620人/660人が子ども会がない地域の子ども・子ども会にワクワク）



○加入者が集まる（加入された保護者で子ども会の支援方法を話し合い）



○子ども会が始まった（クリスマス会に向けてリーダー会議スタート：1人1台タブレット）

③今後のたくらみ（思い、理想）

その1 ○子ども会がない地域に「子ども会の新設」

○児童数が少ない地域に「子ども会の合併」

※この事業を「全力で進めていく」 → 「小学生の加入率100%」

その2 イン・リーダー研修参加者数を爆上げ

R5：36人 → R7：小学5年生 → 「子どもによる子ども会活動100%」

■行政（鹿屋市教委 生涯学習課）と市子連が一体となって活動した素晴らしい事例発表でした。ただ、鹿児島県、鹿屋市のように、行政の課が子ども会と学校に深く関わっている場合の例であり、そうでない子連、単子子ども会はその実践のハードルは高いと感じた。

■しかし、今後の熊本市子協に生かせる分は積極的に取り入れていきたい。

2 協議

◎現状と課題（第4班）

◇単子子ども会の活動がマンネリ化＝消極的活動 ◇単子子ども会がコロナ後活動していない
◇球技主体の子ども会になりつつある・球技にも入らなくなって子ども会が成り立たない
◇「私は子ども会の会長です」と育成者が言っている・狭義の子ども会と育成会の混同
◇育成者が主体。子どもはそれに従っている ◇町内会での子ども会ができていない・町内会でわずか1家庭での子ども会・町内会で子ども会に理解がない ◇行政の協力が少ない
◇習い事などが多い ◇年々会員数減少。特にコロナ後 ◇子ども会会員の減少
◇どうしたら子ども会の会員が増えるか？ ◇役員を募集しても集まらない ◇役員不足
◇役員を募集しても集まらない ◇役員＝大変のイメージが強い ◇役員をやりたいくないので子ども会を抜ける ◇育成者の意識を変える・人と付き合えない ◇市子連からの退会（単子） ◇JLの育成難

◎ 「子ども会の目的」についての意見交流

〈第1ラウンド〉（第4班）

○子ども同士の交流・発表の場 ○子どもの主体性を培う ○いろんな体験の場

- 発表力、表現力を培う場 ○地域のリーダー的役割・育成
- ・異世代交流 ・親の交流 ・町内の家庭事情が分かる。 ・町内会とのつながり ・防犯にもつながる

〈第2ラウンド〉(第2班へ移動して、情報収集・意見の交流)

- 地域を引っ張る、盛り上げる人材の育成 ○学校で教わらない知識や体験をしてもらえる活動
- 子ども会活動を通して非認知能力を伸ばす ○子ども時代に夢中になって遊ぶ体験(の重要性)
- 地域生活での子どもと大人の関わり方を学ぶ
- 子どもの異年齢集団活動→社会性を養う ○楽しく遊ぶ
- ・育成者の交流を深め子どもについて語り合える場

〈第3ラウンド〉(元のテーブルに戻って、他の班のでの気づきや収集した意見の統合)

- 生きる力を付ける ○家庭でできない体験 ○大人も子どもも楽しく遊ぶ
- 多様性の理解が深まる ○教育と学習支援の場 ○地域とのつながり ○地域愛につながる
- 大人の都合でなく子どもがワクワク

◎「子ども会の目的を具現化するための方策」

〈第1ラウンド〉(第4班)

- 行政を巻き込んだ取組 ○親に理解してもらう ○子ども達の意識付け ○子ども達に企画(アイディア)を考えてもらう
- 子ども会に加入することでかきだしできる○交流・体験・リーダー育成

〈第2ラウンド〉(第3班へ移動)

- 親子でハイキング ○第3土・他の団体の行事をストップ(県教委から)青少年の活動の日
- 親子でセミナー(親のコミュニティ不足)→親と一緒に ○地域と昔遊び
- 親に興味を→親に「子ども会とは」とはを理解してもらう→親子一緒に

〈第3ラウンド〉(第4班へ戻って)

- 加入すると得する行事 ○「コリンピック」 ○レクリエーションゲーム(5つ)
- ▲□とりゲーム

〈第4ラウンド〉 ファシリテーターのまとめ

- ①1グループのみの内容紹介
- ②協議内容1～4までのまとめ(協議内容の共有)



分科会終了

- いろいろな地域の子ども会の現状と課題、子ども会の目的の考え方、およびその具現化に向けての方策などが話し合えて、大変有意義な分科会でした。
- 熊本市子協の活動に反映していきたいと思えます。